令和８年 11 月 17 日
経済文教委員会提出資料

2026年冬ダイヤにおける国際定期便の運航について

１．これまでの経過

2025年5月21日から、韓国エアロＫ航空による清州－帯広間の国際定期便が運航されており、帯広市では、運航開始当初より、継続的な運航と利用拡大に向けて支援を行ってきている。

本年の夏ダイヤ期間についても、令和８年度当初補正予算により支援を行ってきたところであるが、中東情勢の影響による航空燃料の高騰等により、当初の運航計画60往復（120便）に対して、41往復（82便）が運休となったところ。

２．冬ダイヤ期間における運航計画

エアロＫ航空から、令和９年１月１日から３月１日までの期間における週４往復での運航計画が提出されたところ。

運航計画

	運航日	運航便数	清州発	帯広着	帯広発	清州着
清州－帯広	2027.1.1～3.1 日・月・水・金	35 往復・70 便	14:00	16:25	18:10	21:20

３．帯広市の今後の取り組み

今後も、国際線の定着を図るとともに訪日外国人観光客の増加に伴う、宿泊・交通・飲食事業者をはじめとする市内事業者への経済効果を促すため、夏ダイヤ期間と同様に運航会社に対する支援を実施する。

事業実施主体
・とかち観光誘致空港利用推進協議会
事業費
・10,294,600円
事業内容
・**国際定期便就航支援**　6,480,000円
　１往復当たり360,000円の支援（1,000円×360席）
　※夏ダイヤから追加となる月・金曜日の便を支援　計18往復
・**空港ビル施設使用料等補助**　3,814,600円
　運航の際に使用する空港ビル内施設の使用料、事務所家賃経費（11～3月）に対する補助

予算については、夏ダイヤ期間の運航支援に要する費用として、令和８年度当初補正予算において計上している観光客誘致宣伝推進費の執行残を活用する。